

永禮宣子 選

特選

桃剥いて月夜の端を濡らしけり

小林 誠三郎

入選

戦傷の身を月光の中に容れ

赤座 閑山

道標の埋もれて久し赤とんぼ

高橋 恵美子

裏山は崩れやすきもの彼岸花

高田 清子

石段を斜めにあがる彼岸花

豊田 加代枝

絵手紙の飛蝗笑つてをりにけり

妹尾 武志

音楽喫茶ありしあたりやちろろ鳴く

光吉 高子

秋天や背に家紋ある蘭医像

武本 文郎

秋暑し歩巾に合はぬ城の磴

荒瀬 秋圃

天高し汀女の句碑を見つけたり

保田 基

秋風が鉄砲町を過ぎにけり

小林 光代

溝口公江 選

特選

秋高し城見橋より見る天守

若林 八重子

入選

戦傷の身を月光の中に容れ

赤座 閑山

秋晴れやペインティングの路線バス

生田 恵美子

缶風車彩りそへてむかし町

鶴田 智子

靴底に小石を噛みし野分あと

福島 徑子

桃剥いて月夜の端を濡らしけり

小林 誠三郎

影置きし月の城垣三鬼こよ

定久 京子

胸像の影置く芝生秋日濃し

岸 しのぶ

作州や水車廻して水澄めり

定久 京子

城跡を日の渡りゆく桐一葉

土居 美知子

秋あかね出雲街道日のさかり

石村 美智子

生田 作 選

特選

谷沿いは伯耆への道あけび垂れ

高橋 義和

入選

一輛車一駄ごとに秋に入る

高畑 禎郎

櫓から櫓へ飛火曼珠沙華

岸 しのぶ

秋天へ備中櫓の屋根の反り

井口 昌子

音楽喫茶ありしあたりやちろろ鳴く

光吉 高子

城跡の紫舟の碑に秋の蟬

大林 美和

秋暑し歩巾に合はぬ城の磴

荒瀬 秋圃

白萩のこぼれておりぬ武家屋敷

藤木 光子

秋風が鉄砲町を過ぎにけり

小林 光代

戦傷の身を月光の中に容れ

赤座 閑山

絵手紙の飛蝗笑ってをりにけり

妹尾 武志